

研究学園駅地区まちづくりセミナー2014 開催報告

開催日時:平成26年4月25日(金)13:30~16:30

開催場所:イーアスつくば イーアスホール

来場者数:約120名

共催 :研究学園グリーンネックレスの会 / NPO研究学園・葛城
研究学園駅センター地区協議会
一般財団法人つくば都市交通センター

後援 : 茨城県 / つくば市



「研究学園駅地区まちづくりセミナー2014」

プログラム

平成 26 年 4 月 25 日(金)

13:30～16:30

イーアスホール

1. 開会挨拶
2. 主催者挨拶
3. 来賓挨拶
4. まちづくりビジョン「グリーンネックレス構想」について
5. 先進事例「守谷野鳥の森などの取組みについて」

—— 休憩(10分) ——

6. 地元の地権者を中心に活動している団体による活動紹介
7. 「研究学園グリーンネックレスの会」による活動紹介
8. 「つくば環境フォーラム」の活動紹介
9. 質疑応答・意見交換
10. 閉会挨拶



研究学園駅地区 まちづくりセミナー

共催：研究学園グリーンネックレスの会
NPO研究学園・葛城
研究学園駅センター地区協議会
一般財団法人つくば都市交通センター
後援：茨城県・つくば市

1

まちづくりビジョン グリーンネックレス構想について

Who?

- 金子 高明** 葛城まちづくりビジョン研究会座長
元UR茨城地域支社長
NPO活動(駅力調査、千葉ニュータウン自転車
マップ作成など)
- 伊藤 節治** (一財)つくば都市交通センター理事長
元UR埼玉地域支社長
つくば市において市民活動支援
千葉市おゆみ野「緑とせせらぎの会」アドバイザー
- コーディネーター **佐藤留美**
NPO法人birth 事務局長
葛城まちづくりビジョン研究会メンバー

まちづくりビジョンとは？

区画整理事業が終了



まちの将来像を描く勉強会を開催。



コアビジョンとして整理

葛城地区の優れた地域資源を評価・維持向上させ、新旧の文化・余暇活動・健康なライフスタイルなどが持続的に享受できるコミュニティづくりを目指します。

グリーンネットワークスとは？

地域資源＝玉

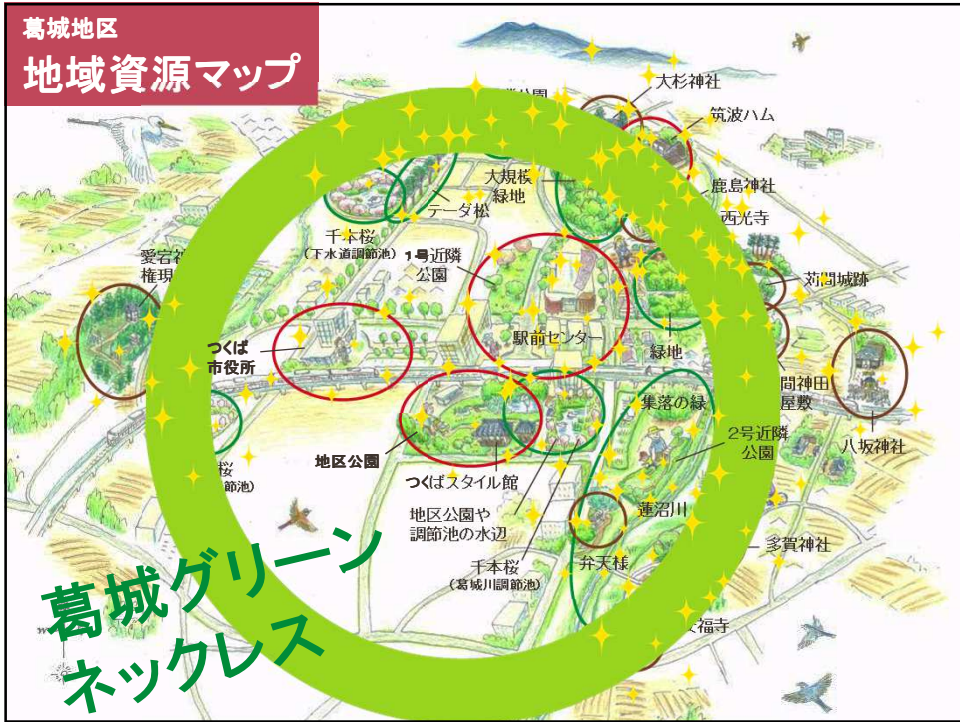
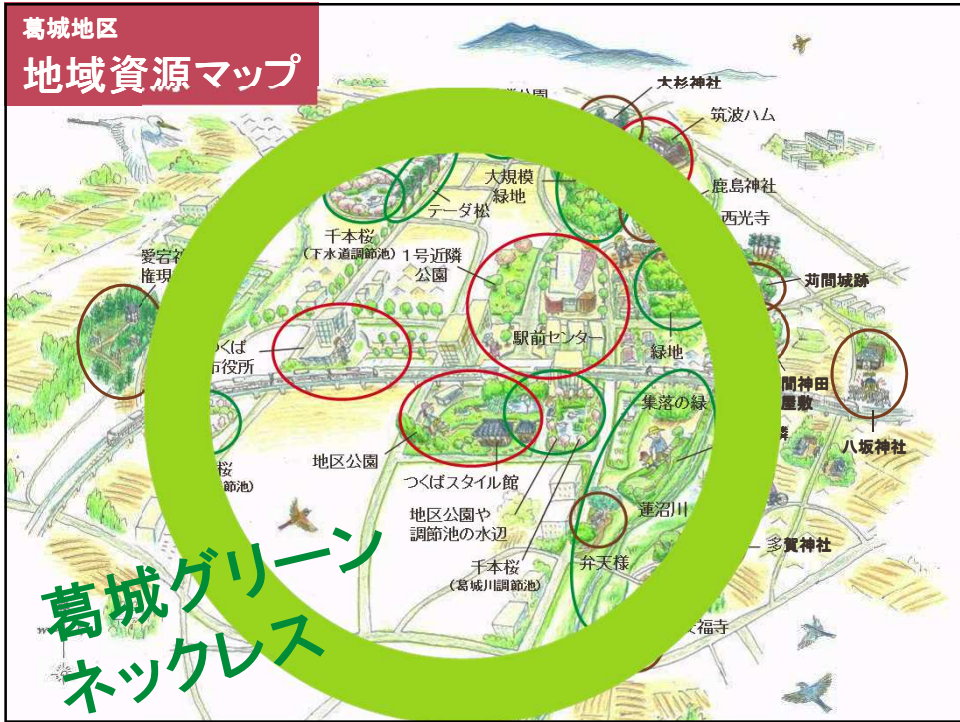


玉を磨いていくために・・・



いろいろな活動によって、
人と場所がつながる、人と人がつながる！





まちづくりビジョンの構成

- コアビジョン
- まちづくりの目標(6つのポイント)
- 目標を達成するための計画
=シンボルプロジェクト
- 目標を達成するための仕組み

コアビジョン

葛城地区の優れた地域資源を評価・維持向上させ、新旧の文化・余暇活動・健康なライフスタイルなどが持続的に享受できるコミュニティづくりを目指します。(再掲)

単なるイベントでは無い！地域資源を生かしたコミュニティづくり！

まちづくりにおける6つのポイント(目標)

- ① 市民協働のまちづくり
- ② 健康的なライフスタイルの実現
- ③ 環境配慮への取り組み
- ④ 歴史文化・地域資産の評価、活用
- ⑤ 景観の向上
- ⑥ まちづくりビジョンの共有化

目的を達成するための計画

～シンボルプロジェクト～





「葛城」三原則！



- ① **できることから始めよう**
シンボルプロジェクトの実施
- ② **新たなテーマを発掘しよう**
- ③ **まちづくりビジョンを共有化しよう**

長く続けていける、
次世代につながるまちづくりを。

目標を達成するための仕組み

- ① 市民活動団体の誕生を促します。
- ② 活動団体の自律を支援します。
- ③ まちづくりプラットフォームを設置します。
 - ① 団体間交流
 - ② シンボルプロジェクトの促進・支援
 - ③ 新たなテーマの発掘
 - ④ まちづくりのPR
- ④ 活動資金等
公益目的支出、つくば市支援金、寄付金など

市民活動の課題

- ① がんばりすぎると・・・燃え尽き症候群
→運営の仕組みづくり
- ② 団体の新陳代謝が進まない。
→オープンな雰囲気づくり
- ③ 継続的な資金確保
→多様なマネールートの発掘
→お金だけではないつながりづくり

2

「守谷野鳥の森などの取組みについて」

守谷市観光協会 会長 作部屋 義彦氏

守谷野鳥の森散策路などの 取り組みについて

～民間だから出来る、
住みよいまちの手づくり

2014年4月25日

守谷市観光協会
作部屋 義彦

平成11年、それは、
県都市計画課担当者の一言から
始まった

「県として、守谷の将来で心配なことは……？」

「緑があまり過ぎること」

県担当者のところ:

～油断すると、常磐新線(当時)開業前後の都市化
の進行で、大幅に緑被率が下がるのでは……

～気が付いてからでは遅い

(横浜市、世田谷区、鎌倉市などの事例)

その後の主な地域活動

守谷市

H11~13 総合計画審議会委員

H13~17 企画課(駅周辺まちづくり推進室)まちづくり専門員、
「緑の基本計画」WG、駅前広場再設計・「駅周辺地

区ま

ちづくりプラン」策定などに参画

H17~20 景観条例策定準備委員会副会長

H20~ 景観審議会委員

守谷市観光協会(公益ボランティア任意団体)

H13~ 会員(H14~ 副会長 H24~ 会長)

H13~ 守谷野鳥の森散策路プロジェクトを推進

H18 西口駅前広場花壇延長72m整備・管理

松ヶ丘西地区民間

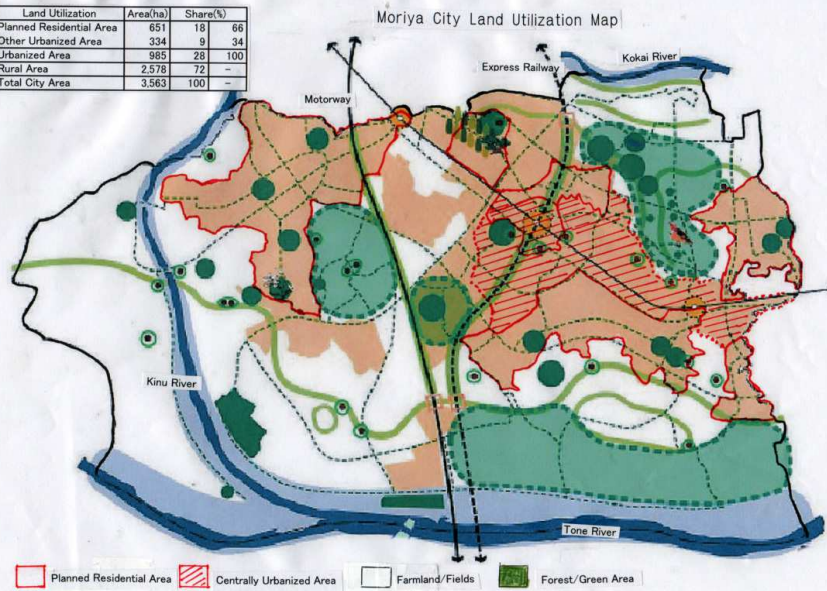
H13~ 松ヶ丘花の輪ボランティアグループ創始
(沿道花づくり、地区まちづくり、企業誘致・協調)

守谷市市域の鳥瞰(三河川に囲まれた台地地形)



市域の土地利用区分(四つの緑の拠点)

Land Utilization	Area(ha)	Share(%)
Planned Residential Area	651	18
Other Urbanized Area	334	9
Urbanized Area	985	28
Rural Area	2,578	72
Total City Area	3,563	100



「守谷市緑の基本計画」緑の拠点のうち 「守谷城址公園・愛宕谷津一帯」の実施

四つの「緑の拠点」

- ① 稲戸井調整池
～ 利根川河川敷、緑の保全と生態系の維持
- ② 市庁舎周辺
～ 緑と空間豊かな公共施設
- ③ 守谷城址公園・愛宕谷津一帯
～ 緑の保全、緑の遊歩道ネットワーク
- ④ 立沢一帯
～ 屋敷林など緑の保全、生態系の維持

「守谷城址公園・愛宕谷津一帯」の段階的实施

- 第一段階(愛宕谷津一帯＝守谷野鳥の森散策路)～整備完了**
～民間主導の協働、地域住民・利用者・企業との連携
～隣接愛宕中学校全校生徒(野鳥の森少年団)の参画
～H13よりH14年間の段階的施工程
～散策路総延長2.5km(5ルート)、関連施設等の自主施工
～自然環境保全、遊歩道・憩いの場・学びの場・野鳥観察・手づくりでまちの魅力の発見・創造
- 第二段階(守谷城址公園接続遊歩道)＝計画**
～H26年より3年間
～民間主導の協働、より深い行政の関わり
～守谷野鳥の森散策路・守谷城址公園を接続する約900mの水辺ルート(並木道)

13年前、この辺りは……

- ☆家庭ごみや業者廃棄物の投棄……
- ☆遠くから大型ごみなどを捨てに来る……
- ☆生態系の破壊……
～以前、中学校の校庭にもいたホウリも死滅
- ☆倒木や流下物、はびこる葎などで、水路は崩れ、自然環境は悪化の一途……

守谷の貴重な森と云う、一般の認識がなかった
(区画整理施行区域だったため、市民・地権者・行政の気の緩み? 同区域:その後廃止)

元々、この辺りは……

台地縁辺の斜面には:

～大昔の氷河期・間氷期(海水面の上下)の繰返しの
中で、浸食堆積で出来た谷間に、自然林が残され……

低地は:

～最大海進時に古鬼怒湾と云われた内海が干上がり、
のちに休耕となった田畑は湿地に戻った……

現況:

～生物が有機的につながった生育環境(ビオトープ)、
100種以上の野鳥の天国が……

平成13年、立ち上がった民間プロジェクト

- ボランティア(市職員3名+市民有志)の企画(Personal Initiative)
- 平成14年、継承した守谷市観光協会主体の事業展開
- 守谷市との、本格的な協働案件
- 平成18年、愛宕中学校全校生徒の野鳥の森少年団の参画
- 平成22年、協力団体として、利用者・地域住民も参加する野鳥の森を育てる会の結成
- 一部の資材確保は、企業の協力

これらを、**多世代による多角的協働**と呼称

整備・運営・管理に当たっては……

- 自主管理:
 - ～一般供用目的の私道(管理:守谷市観光協会)
 - ～一部の設備の利用には附保
- 業者に頼らない自主整備:
 - ～自分たちの手で、極力自然環境の原状を壊す
 - ～資材調達などでは、企業協力も
- 多目的利用:
 - ～遊歩、いやし・憩い、自然・野鳥観察、野外学習など
- 自己責任による利用:
 - ～但し、多人数利用には個別利用指導も
- 野鳥の森少年団の参画:
 - ～木煉瓦通、木煉瓦広場の設置、資材移送、清掃など

現状

- 散歩路(総延長1,310m 接続市道を入れると2.5km)
 - 北ルート(西林寺口～山王下口) 231m
 - 南ルート(愛宕南口～奥山本田口) 458m
 - 中央西ルート(愛宕北口～愛宕中擁壁下) 151m
 - 中央東ルート(フローティングブリッジ～中央北口) 345m
 - 水辺ルート(水辺広場～北ルート取付) 125m
- 設備
 - フローティングブリッジ(平成22年) 長さ37m 幅1.6m
(私有の準公園道)
 - 小屋2棟(平成23年)
 - 森のステージ(平成25年) 間口約8m 奥行約4m
 - トイレ(平成26年)
- 駐車場所
 - 周囲5箇所に各数台(近隣住民、中学校の協力)

第一段階(平成14年) 北ルート 231m

(民間所有地と
廃道化した市道の再活用)



立ち上げ時の
ボランティア
メンバーたち

課題:

- ・倒木と投棄された近隣
ごみの山の処理
- ・将来の廃棄物投棄防
止の布石





北ルート：
原状と現
在の姿

北ルートの特徴：
明るい林間、運がよければ
オオワカが空を舞うのが
見られるかも



投棄廃棄物を搬出する
守谷小の生徒

初期作業に
参加の守谷
小高学年の
生徒たちと、
愛宕中の生
徒たち、総勢
200名以上

第二段階(平成15年)

南ルート 458m

(廃道化した市道の再活用)





刈り取った熊笹などの
搬出作業に参加した
愛宕中生徒たち
(男子は現場で搬出
作業中)

架橋作業

- ・以前は、ホタルが飛び交う
美しい苗代があった処
- ・それで、ホタル復活を願い
「ホタルいばし」と命名



第三段階(平成18~23年)

中央西ルート 151m

中央東ルート 345m

独立した南北ルートの接続

(民間所有地、廃道化した
市道などの再利用)



新ルート探索：
守谷市観光協会
メンバー、愛宕中
生徒会長と野鳥
の森少年団長

急斜面の未踏ルート
で、安全で変化に富
んだ、神秘性のある
ルート設定を試みる



休耕田跡の湿地横断の
フローティングブリッジ
(1.6m幅 37m長)
・会員の企画設計施工
・中学生の作業参加
・廃材活用(中古発泡箱
と木製パレットが浮体)

・米国シアトル郊外
ワシントン湖の高
速道路ブリッジか
らヒントを得た





守谷市観光協会会員の作業



中央東ルート：
急斜面の原状と現
在の姿

本格的な山道を想
わせる、変化に富ん
だルートの一部



中央東ルート：
急斜面の藤等は、
障害物だが迂回し
て進む

藤の園：
林間の自然の
魅力の一つ



中央東ルート一部：
原状と作業風景
(唯一の平地は水辺広場
に、頑張った観光協会と
市経済課の皆さん)





そうだ、小屋を建てよう、
自分たちの手で、いつまで
も思い出の場所に

憩い、交流、学びの場に
なる



協会のメンバーと女性ボランティアの皆さん

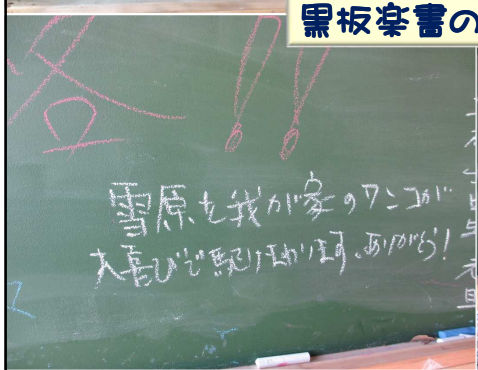




出来上がった小屋：
 雰囲気は軽井沢、
 交流・情報発信の場、
 黒板は、自由落書きOK
 (子供たちのゴミ捨て、所
 構わぬ落書きはなくなった)



黒板落書きのいくつか





**第四段階
(平成24～25年)**

**水路の整理
水辺ルート128m
(水辺と民間所有地の再利用)**

水辺の整理は、悪戦苦闘の連続



水辺ルートへの休耕田跡湿地の横断部
～路盤:土藁・おが屑・
木材チップ
～畦波シート:へビ除け・
風評被害防止策



第五段階(平成25-26年)

水辺広場・周辺の整備

〈14年間の締めくくり〉





水辺広場の木煉瓦敷き:愛宕中野鳥の森少年団



三角構造で屋根を吊り下げ

「森のステージ」は、整備事業の総仕上げ
 愛宕中学校校長の要望で
 クラス最大34名収容可能
 ベンチは、会員手づくりの
 焼き塗装、最大120名着席



完成した水辺ルートと水辺広場



懸案の手づくりトイレ

守谷野鳥の森散策路では、
いま……





野鳥の森ビオトープの住人たち(一部)





施設を維持する会員の補修作業



森を美しく、野鳥の森少年団との合同清掃作業

野鳥の森合同コンサートの開催(126.4.6)

～愛宕中学校管楽器アンサンブル+オカリナ・ソロ～
～県主催ワンデーツアー参加者と地域住民の皆さん



協働は、民間と行政のよい処を引き出す

- ◆ **迅速な意思決定と行動:**
民間＝日・週単位、行政＝月・年単位
- ◆ **先に考えること:**
民間＝「本来やるべきこと」、行政＝「本来やれること」
(私見：市民が、そうさせてる?)
- ◆ **目標:** 民間＝利用されるものをつくる、利用者本位の考えに徹する、こだわり、ボランティア活動でも甘くない、趣味活動以上のもの、常に社会的責任を伴う
(他方、名誉と誇り、達成感、世界につながるまちづくりの実感)
- ◆ **行政との取り組みのアドバンテージ:**
地域最大の情報集団、集積された経験、夢や本音を引き出す価値がある(そのためには、行政の信頼を得る)、
行政は精密機械(分析力は大きい参考になる)、
行政には、やられたくても直接出来ないことがある

プロジェクト推進で考えたこと

- 色々の矛盾を乗り越える
 - ～ボランティア活動(自由参加)と社会的責任の挟間
 - ～指揮官先頭の原則と合議制の挟間
- 人材確保の難しさ
 - ～仲間が頑張れば頑張るほど、独特のカルチャが・・・
 - ～場合によっては、外部から入りにくい雰囲気をつくる
 - ～中核人材の確保は、企業経営の難しさと一緒に
- 資金確保の悩み
 - ～発想の転換、知恵を絞って、キャッシュ流出を極小化(自主整備、企業協力などなど)
 - ～確保した外部資金の3倍の社会的価値創出を目指す

The End

ご静聴 有り難うございました

3

地元の地権者を中心に活動している 団体による活動紹介

NPO法人研究学園・葛城の紹介

研究学園駅を中心として、つくば市の発展・繁栄に資するために、桜の植樹、駅前開発及び市内防犯パトロール等を行い、**安心・安全なまちづくりと環境保全の活動**を行っています



「千本桜まちづくり事業」の取組み

つくば市、葛城・遠東地区まちづくり協議会が中心となり、平成19年3月より、5年計画で「千本桜事業」を開始。



約600本の桜・アジサイを植樹。



日本アロマ環境協会賞を受賞！

植樹場所

【植栽方法】
関係地権者、小学校、
保育所等に呼びかけ、
植樹作業を行った。



「研究学園駅前イルミネーション」



経緯

- ・H19年 スタート
- ・12月初旬～翌年2月下旬
- ・駅前センター協議会、
地元のまちづくり協議会、
区長会、PTAなどによる
実行委員会主催



今後のまちづくりへの想い・・・



まち中のオープンカフェのイメージ

人々が集い、にぎわうまちにしたい！

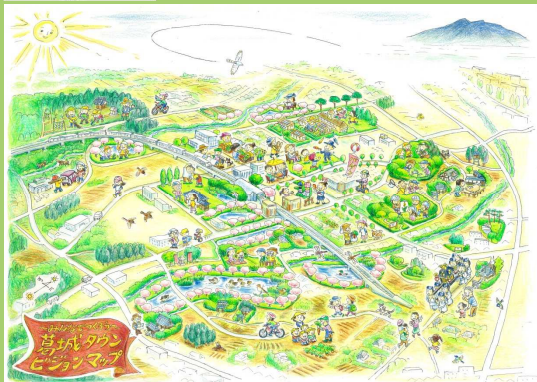
4

「研究学園グリーンネックレスの会」 による活動紹介

「研究学園グリーンネックレスの会」



葛城地区及びその周辺地域において、「地図作り」、「花壇づくり」、「イベント等」を通してコミュニティづくりを推進している



**ボランティア団体
の集まりです！**

**「集い、潤い、学ぶ」
まちづくり**

経緯

- 平成24年2月 地域活動に関するアンケートの実施
・130世帯のモニターでスタート
- 勉強会の開催
・平成24年5月～平成25年2月までに、モニターを対象とした勉強会を5回開催。
・みどり系、タウンセンター系、歴史文化・地域資源系の3つのテーマが浮かび上がった。
- ビジョンづくり
「葛城まちづくりグリーンネックレス構想」策定
- 平成25年度より3つの活動グループ誕生
まちづくりビジョン「グリーンネックレス」の旗のもと、3つのグループが、活動を通してコミュニティづくりを推進中。
「花壇づくり」・・・かつらぎグリーン
「イベント等」・・・かつらぎタウン
「地図作り」・・・かつらぎカルチャー



グリーンネックレス グリーンの会

目 標

葛城地区及び周辺の里山のみどり資源「花」
「森」「農」を市民協働で育み、緑の基軸(グリーンネックレス)となる自然環境とコミュニティづくりを進める。

活動内容

当面は、花壇作りを中心とした、研究学園駅周辺の美化活動を行う。



- アダプト・ア・ロードへの登録済
- ウエルカムフラワーcityつくばでの花苗申請

今後の予定

サーパスマンション横



- サーパスマンション横、ポンパドウルと「とりせん」の間の植栽升(10升)への花植え(6月、10月実施予定)
- 花植え後の水やり、メンテナンス作業
- ハンギングバスケットや、ガーデニングに関する講習会の受講など

ポンパドウルと「とりせん」の間





グリーンネックレス タウンの会

目 標

葛城地区の玄関口であり、また街の顔でもある
タウンセンター地区において、明るく楽しく、人々
が留まり、交流する、**にぎわい感ある界隈づくり**
を進める。

活動内容

タウンセンターエリアにおける、イベントの開催

第1回 イベント
「パンとワインと音楽と」開催



今後の予定

- イベントの開催
「パンとワインと〇〇と」の継続
春・・・スプリングコンサート(管楽器バンドによる演奏)
夏・・・サマーナイトコンサート(週末の夕方～開催を予定)
秋・・・検討中
冬・・・研究学園駅イルミネーション点灯式との
コラボレーションイベントを検討中
- タウンマップの作成(カルチャーの会との連携)
- タウンセンターエリアの美化活動(グリーンの会と連携)

グリーンネックレス カルチャーの会



目 標

地域の歴史文化資産を含む地域資源を学び評価し、新たな文化薫るまちづくりを進めるとともに、市民の交流を図り、時を重ねてきた地域への理解を深め、愛着を育む。

活動内容

研究学園、葛城地域の自慢マップの作成、配布
散策ルートマップの作成



今後の予定

- ① 自慢マップの更なる充実
- ② 歴史文化の小冊子作成と歴史セミナーの開催
歴史・文化的な箇所の調査資料を纏めて小冊子に編集する。あわせて小冊子に絡むテーマにつき専門家によるセミナーを住民に向けて行う。
- ③ タウンエリア(駅前地区)の自慢マップの作成
- ④ 散策コースの設定、整備 (名称、解説、案内板など)
- ⑤ つくば環境フォーラムとの共催の散策会の開催

5

「つくば環境フォーラム」 の活動紹介

1. つくば環境フォーラムについて

- 設立
 - ・平成13年7月設立／同年12月NPO法人化
- テーマ「自然と人との共存」
- 目的
 - ・豊かな自然を未来世代に引き継ぐ
- 活動の三本柱
 - ・実践 里山の自然環境の保全活動を行う
 - ・育成 保全活動・教育活動を担う人を育てる
 - ・連携 地域の自然を守り育てる人の輪をひろげる

つくば環境フォーラムの主な活動

オオムラサキの棲む里山づくり	オオムラサキ保護・調査、平地林保全（森づくりボランティア）、自然体験
しぜんっこくらぶinゆかりの森	幼児親子の自然体験教室 森の探検・農体験・伝統文化体験
筑波山麓・霞ヶ浦水源の森づくり 生きものと共存する米づくり	「つくば薪クラブ」との協働 自然豊かな谷津田の存続 森と田んぼが一体となった里山保全
筑波山ファンクラブ	自然観察会・ブナ調査・通信
筑波山自然インストラクター	学校向けガイド、筑波山の自然展
地域連携・都市農村交流	筑波山麓グリーンツーリズム推進協議会、情報紙「すそみろく」発行
つくば市の環境教育事業 の企画運営	筑波山麓自然学校（11回）、筑波山自然環境教育事業（6回）、つくば里山のしみ隊（5回）













2. オオムラサキの棲む里山づくり

- 目的
 - ・生きものを指標とした平地林保全
 - ・TX沿線開発で消滅しそうな国蝶オオムラサキのレスキューと環境教育
- 活動場所
 - ・つくば市下平塚の民有地(保健保安林)
 - ・つくば市立島名小学校(保護飼育終了)
- 活動内容
 - ・森づくりボランティア(H15年より開始・現在102回)
 - ・里山こどもワンダーランド作戦(親子の自然体験)

都市周辺に残る平地林保全の課題



開発でなくなる林の生き物はどうなるのか？

開発後も残る林をどうするのか？

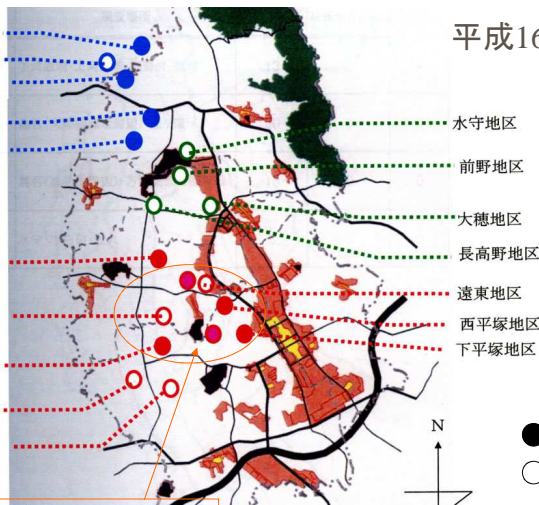
←ゴミの不法投棄が目立つオオムラサキ生息地(H15) この林も今はない

オオムラサキ越冬幼虫調査 幼虫確認地点

平成16年

つくば市
北部

向上野地区
小渡地区
寺具地区
作谷地区
南作谷地区
今鹿島地区
鬼ヶ窪地区
河原崎地区
河原崎地区
島名地区



水守地区
前野地区
大徳地区
長高野地区
遠東地区
西平塚地区
下平塚地区

つくば市大
穂地区

つくば市中
央部

● 生息確認地点
○ 未確認の地点

つくばエクスプレス大規模開発予定地域

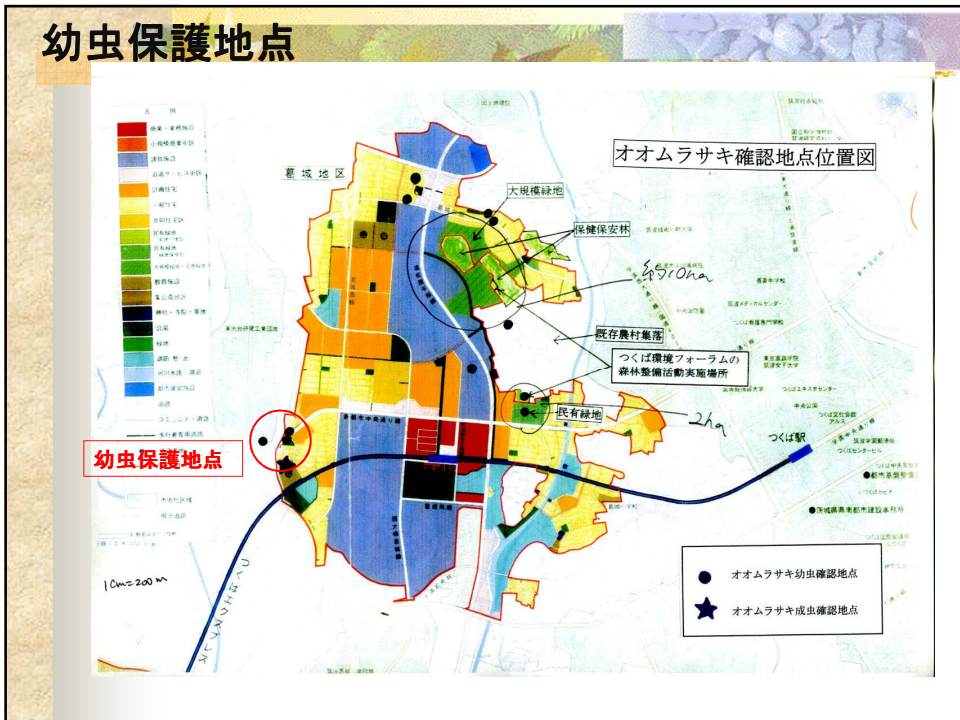
TX沿線開発でなくなる生息地の
オオムラサキ越冬幼虫を保護・飼育



オオムラサキ飼育施設－島名小







下平塚くぬぎの森



開発地区に隣接する市街化調整区域の林、保健保安林に指定されている民有林、及び周辺の大規模緑地
⇒ 合計約25ha

保健保安林—下平塚



茨城県、地主さん、つくば環境フォーラムの3者で協定して、森林整備を実施

◆平成25年3月まで102回の森づくりボランティア活動
→約2haの森林を整備、のべ1875名参加





松枯れ跡地への植林平成15年年3月



再生した保健保安林
(2013年夏)



里山子どもワンダーランド作戦

大人と一緒に森の手入れ、遊びや自然観察を行う



教育広報活動

- ◆オオムラサキをシンボルとした里山保全活動の浸透
→活動継続のための担い手の確保

環境パネル展への参加、リーフレット・ブックレット作成
オオムラサキ・ピンバッジ等の製作普及



◆ 学校との連携

★つくば市立島名小学校に飼育施設を設置(平成15年)

→平成16年から「オオムラサキ」を教材とした環境教育の授業実施

★平成19年 つくば市「つくばスタイル事業」交付金を得て

小中学校向け教材「つくばのオオムラサキ」作成

★ 出前授業実施

→平成22年12月までに、のべ約1千名の児童対象に実施。



「オオムラサキの森」周辺の平地林位置図



平地林保全活動の課題

①地域全体の緑地保全計画の必要性

緑地の質の確保(様々な生きものがある環境の保全)

緑地の面的な量の確保

緑地のネットワークへの視点

②だれがどう維持管理するのか？

ボランティアコーディネート

自然に配慮した管理方法

資金の確保

③保全のための合意形成

地主、地域住民、行政セクター、ボランティア団体

目標は・・・

自然豊かな里山を未来の子どもたちへ



自然環境を活かしたまちづくりを！





平塚の森(仮称) 新緑ガイドツアー

4/29(祝) 9:30~13:30

主催：NPO 法人つくば環境フォーラム
協力：研究学園グリーンネットの会
後援：つくば市教育委員会

つくば市緑地地区には、緑地として保存されてきた広い森(※)があります。そしてその辺りには、17の自然観察が始まる頃、園遊やムラサキを絡めとする里山の生きものが生息していました。「この自然の宝物を、これからここに住む人々に譲ろう」と、つくば環境フォーラムでは10年に渡って保全活動を行ってきました。周辺にお住まいの皆さまに、この森の美しい自然をご紹介したいと思っておりますので、ぜひ、ご参加ください。

(※) つくば環境フォーラムが保全活動を行ってきたのは、保護保安林(国有林)の中で、保護して大規模緑地(県有林)もありません。



※これからも、森のガイドツアーや、森を学べるイベントなどを開催していきますので、ご参加ください。ご案内はホームページで。

お散歩がてら、ご参加ください。お一人で、ご夫婦で、お子さまと一緒に、どうぞお気軽に「自然に詳しいスタッフがご案内します。」

スケジュール

- 9:30 下平塚(※)の森集合 (森園に集合あり)
 - 9:40 出発開始
くぬぎの森→下平塚(※)→平塚の森→にれ工場 (2km程度)
 - 11:00 にれ工場到着
 - 11:10 ビデオ上映と活動紹介
森を歩いた後、森に詳しい「にれ工場」で【つくば市の自然の宝(※)づくり】の活動を記録したビデオを上映します。お子さまの質問に対するお答えの時間もあります。
 - 12:00 交流会
(※)に寄り、郷土料理の天ぷらなど(※)です。
 - 交流会では、みんなで郷土料理の天ぷらを食べながら、当日の感想などを話しましょう。
 - 13:30 終了予定
- 参加費：無料
募集：30名程度

問合せ・申込：NPO法人
つくば環境フォーラムまで
TEL/FAX：029-863-5151
e-mail：info@npo.or.jp
http://npo298.sakura.ne.jp/

研究学園駅地区まちづくりセミナー 2014

開催日時：平成 26 年 4 月 25 日（金）13:30～16:30

開催場所：イーアスつくば イーアスホール A・B・C

【議事要旨】

1. 開会挨拶（総合司会 福田）

2. 主催者挨拶（研究学園グリーンネックレスの会 金川代表）

本日は、研究学園グリーンネックレスの会が開催するセミナーに 100 名を超える方々にお集まりいただき、盛大な会となった。平成 17 年の TX 開通から今年の 8 月で丸 9 年を迎えることになり、来年の 10 周年に向かう節目の年となる。

そのような流れの中、この研究学園の街をもっと元気なまちに育てようという呼びかけから平成 24 年 5 月より勉強会が開催され、勉強会・ワークショップを重ねてきた。本日は、各会のメンバーからの報告をはじめ、各方面で活躍されている方からの話をさせていただく場としてセミナーの開催に至った。

本団体は、もともと研究学園にお住まいの方、隣接するエリアの方など 30 名程から成る。活動のコンセプト・概念は、研究学園駅を中心とする地区に集う場、憩える場があり、働く場がある、そのような多彩な街の側面の一つとして集える場所を設けようということ、そして環境配慮の面からは足下に花などを植えてもっと環境的に良くしようということ、周辺を含め散策に適している場や歴史的な資源がたくさんあるのでそれらを学んでいこうなどをテーマとして各グループで活動を行っている。今現在も成長し発展しているこの研究学園をもっと皆さんに知ってもらい、もっと成長させ、皆さんと一緒にあってより一層の活動を進めていきたい。ご協力よろしくお願ひします。

3. 来賓挨拶（つくば市企画部 石塚部長）

『「誰もが主人公」のまちづくりを目指して』というタイトルのセミナーで、このように多くの方々がお集まりになり、盛会の中で開催することは誠に喜ばしいことである。このセミナー開催にあたっては、つくば都市交通センターをはじめ関係団体の方々と市民参加でまちづくり活動にご尽力いただいている。改めてお礼申し上げる。

つくば市は、昨年、筑波研究学園都市建設という最初のステップから数えて 50 年を迎えた。今年はターニングポイントの年である。平成 17 年の TX 開業後、沿線各地は素晴らしい活力を発揮してきている。特にここ葛城地区においては大規模ショッピングセンター、マンション群、分譲住宅の建設が進んで人口も増加しており、TX 沿線開発地区、つくば市内だけでも 8 万人の計画人口に対して現在 1 万 6 千人を超えている。50 年先を見据えたまちづくりビジョンにおいても、つくば市の人口は増加傾向を続けながら 2035 年には転向し、その後穏やかに減少していくと推計している。こうしたなかで、このようなまちづくり活動を地域で進めること、市民の方々が主体的に取り組んでいく力は今後の大きなインパクトとなる。TX 沿

線のそれぞれの自治体がパートナーであると同時に、地域の優位性をアピールしていく環境に置かれていることから、まさに今行われているようなまちづくりの取組みこそがその地域の良さを発揮していくインパクトにつながると考えている。

3.11 の震災を受けて認識されたのはコミュニティの力である。時代、地域が変わっていく中でいざという時に、地域の力というものがどれだけ育てられているか、これは少子高齢化社会にも通じるものである。新しい動きを感じるこの地域で、新たなまちづくり活動が生まれ、展開されていくことを期待するとともに、市も一緒にまちづくりに関わっていきたいと考えている。皆さまのご健勝と、このまちがとても住みやすく、安全で安心なまちとなることを祈念してご挨拶とさせていただきます。

4. まちづくりビジョン「グリーンネックレス構想」について

ファシリテーター（佐藤）

これからこの地区をどのようなまちにしていきたいかということで、私もまちづくりビジョン研究会、勉強会に参加し、たくさんの方々と共に話してきた。本日は、どのようにこのビジョンがつくられてきたのか、そしてこれからどのように進めていくのかなどについて、まちづくりビジョン「グリーンネックレス構想」の作成に携わってきた金子さん、伊藤さんと共に話を進めていきたい。

（パワーポイントをもとに対談）

佐藤氏：まず初めに、この葛城まちづくりビジョンはどのような経緯で作られたのでしょうか。

伊藤氏：UR が進めてきた葛城地区の区画整理事業が今年の 6 月で終わりますが、その後のまちづくりをどうするかという議論がつくば市、UR との間でありました。それを受けて、私ども財団が地域貢献の一環として区画整理事業完了後のまちづくりについて考えようということになり、まず地元の方々にアンケートをかけて市民の皆さんからモニターを募集し、5 回ほど勉強会を開催しました。それと同時に、専門家や UR、つくば市にもオブザーバーとなっていただき、まちづくりビジョン研究会を組織し計 9 回ほど精力的に行ってきました。それらを経てコアビジョンとして整理しました。

この葛城地区には普段はなかなか気づかないものも含めて多くの地域資源が存在しています。地域資源を発掘・調査して、それをさらにどうしていくか。新旧の文化・余暇活動・健康的な暮らしができるようなコミュニティづくりを目指そうというものがまちづくりビジョンです。

佐藤氏：本日もモニターの皆さんも多く参加いただいていると思いますが、どのくらい集まったのでしょうか。

伊藤氏：アンケートでは 130 名ほど集まりました。実際には 30 名ほどであるが熱心に勉強会にご参加いただきました。

佐藤氏：多くの皆さんがまちの将来についていろいろな思いを持ってビジョンづくりに参加したのですね。さて、伊藤さんのお話の中で「地域資源」という言葉がありました。「グリーンネックレス構想」のもとになっているのは地域資源だというこ

とですが、それについてご説明をお願いします。

伊藤氏 : この地区の資源として特徴的なものは、やはり平地林などを中心とした里山環境です。神社やお寺など歴史文化遺産も周囲に多く存在します。それから新たに造られた公園や広場、おいしいパン屋さんやしゃれたイタリアンレストランなど新しいものもあります。これらを含めたものが地域資源といえます。

佐藤氏 : このような地域資源＝玉を磨いていくこととして、どのような活動が行われているのでしょうか。

伊藤氏 : この地区に生活していてもなかなか気がつかない資源もあるということで、まずみんなで地域資源を探そうという活動から始まった。資源をさらに良くしようという活動として花壇づくりをしてきれいにしたり、街にある空間を活かして賑わいをつくっていこうという活動が主な活動です。

佐藤氏 : アンケートをかけて皆さんが集まってからおよそ 2 年ほどになるが、その間にどんどん活動が始まってきたということですね。

さて、どのような地域資源があるか見てみましょう。研究学園駅を中心として様々な地域資源が存在していますが、金子さん、この葛城地区の地域資源をご覧になっていかがでしたでしょうか。

金子氏 : 先程、みんなで現地を見ながら地域資源を探そうということから始まったという話がありましたが、見つけるということは目利きが必要だということです。常に輝いて光っているものは見つけやすいが、これはもしかしたら磨けば光るかもしれないというものを見つけるのはなかなか難しいですよ。そのようなものを含めて皆さんでいろいろ見つけられたと思います。将来、磨くのが楽しみなものを見つけたということでもあるでしょう。皆さん研究熱心に活動されたと思います。エリアが大変広いので地域資源も多いと思います。

佐藤氏 : 歴史的な資源もあれば市役所などもあり、いろいろな要素があるエリアだと思います。これらをぐるりと結んだもの、これがグリーンネックレスということです。

金子氏 : 「グリーン」という言葉は一般的に広く使われるようになりましたが、居心地の良いもの、気持ちの良いものという意味も含め、自分たちをやさしく受け入れてくれるような良い空間を拾い出してそれらがつながるということが大事だと思います。それぞれの活動、地域資源が無関係ではなく、ネックレスのように輪っかになって活動も人も空間もつながってだんだん発展していったらいいなという考えから「グリーンネックレス」という名前を付けました。

佐藤氏 : 場所がつながっていくということは、人と人がつながっていくことが大切であり、それがあってこそまちづくりが発展していく支えになるのだと思います。

では、このまちづくりビジョンの構成について伊藤さんよりご説明いただきます。

伊藤氏 : ビジョンは 4 つの構成から成ります。

コアビジョンは、最終的にはコミュニティづくりを目指すことにあります。特に強調したいことは、単なるイベントではないということです。地域資源を活かしたコミュニティづくりということがコアビジョンの肝となります。

まちづくりにおける 6 つのポイント (目標) は、リブコム (The International

Awards for Liveable Communities) という世界で唯一のまちづくりコンテストがあり、その 6 つの審査基準を準用しています。実は、私は 2009 年にチェコ共和国で行われた大会に行き、越谷レイクタウンのプレゼンテーションを行ったのですが、“地域の環境を良くして生活の質の向上を図っていく”というリブコム理念に非常に感銘を受け、私たちが考えるまちづくりにも近いことから葛城地区でもこの 6 つの視点でまちづくりを進めてみようと考えました。その後登壇する守谷市も一昨年、アラブ首長国連邦で行われた大会に参加され、銀賞を受賞しています。国連が認証する唯一のコンテストで、格式もある大会だと思います。

佐藤氏 : 国際的な基準をまちづくり目標にしたのですね。さて、目標を定め、その目標を達成させるための計画づくりというものが大切になってくると思いますが、この葛城地区でのシンボルプロジェクトについてご説明をお願いします。

金子氏 : 一般的にシンボルプロジェクトというと大きなプロジェクトを想像される方も多いでしょうが、このビジョンで挙げているシンボルプロジェクトとは、「葛城三原則」にもあるように、取り組みやすいことをまずやってみよう、みんなが参加できて、体験をして、楽しいねと思えるような取り組みやすいものであり、他でシンボルプロジェクトと言われるようなものとは少し異なる設え方をしました。

佐藤氏 : 「私も参加してみようかな」と活動参加へのきっかけづくりとなるような取り組みということですね。実際始まった取り組みにはどのような活動がありますか。

伊藤氏 : このあと各会からの報告発表がありますが、まずは地域を知るために「探検隊」と称し、地域を巡って資源を発掘する取り組みが始まりました。里山環境に関しては、緑資源の維持管理・活用という取り組みや、まちなかをきれいにしようということで、公共用地だけでなく私有地も含めて花いっぱい運動を始めています。ポンパドウルさんの駐車場を利用した花壇づくり、若手音楽家と連携したイベントを行うなど、「芸術のまちつくば」を盛り上げていくような取り組みもあります。

佐藤氏 : 目的を達成するために皆さんでこのような計画をつくって取り組まれているようですね。先程金子さんよりお話しがあった「葛城三原則」についてももう少し見てみましょう。

金子氏 : ビジョンを作成する際に、最初からすべてを盛り込むということは難しいです。まずは①「できること」からみんなで取り組んでいきながら、②「新しいテーマ」やアイデアが出てきたり、みんながいいなと思ったものを取り入れてみるといった柔軟なスタンスでやっていく。そしてみんなで③「まちづくりビジョン」を共有する。みんなが「それいいね」と共感しないとなかなか活動は進まないの、共感できるようにするためのツールが大切です。以上の 3 つを葛城三原則として決めました。

佐藤氏 : 息長く続けていけるような、次世代につないでいくようなまちづくりをしていこうという目標だということですね。

さて、目標を達成するためには考えなければならない点がいくつかあります。その仕組みについてご説明をお願いします。

伊藤氏 : モニターの方を募集して勉強会を行い、現在 3 つのグループができています。そ

のような市民活動団体の誕生を促すことを考えています。そして誕生した後、その団体が自律していくための支援、またグループだけの活動に留まらずこの地区で活動している NPO などの団体間交流、地域企業を含めた地域ぐるみでの活動や交流ができるような場としてのまちづくりプラットフォームの設置などを考えています。プラットフォームの役割としては、何よりも活動の PR をし、皆さんに知ってもらい、いろんな方に呼びかけをしていくということが重要だと考えています。さらに、資金がないと活動は頓挫してしまうので、財団の公益目的支出、つくば市の「アイラブつくば」のようなまちづくり支援金、企業等からの寄付金、全国の様々な団体等が行っているまちづくり助成金などへ申請し、資金づくりをしていく支援も考えています。

佐藤氏 : 私たちも団体の活動支援をしていて感じますが、市民活動の課題として挙げられるのは、やはりがんばりすぎの方が多くことです。活動が軌道に乗るまで最低 3 年はかかります。ひとりでがんばりすぎない、みんなで分担しながら楽しむという気持ちでやっていくのが良いと思います。また、団体に入る入口が狭まることで新陳代謝が進まないということもあり、入口を多く持つておくことが必要です。そして、やはり活動資金の管理です。活動へのいろいろな思いも大切ですが、多様な資金のルートを探すことと、お金以外の部分では、地域のいろいろな方とのつながりをつくっていくことがネックになると考えます。

伊藤氏 : 私ども財団でも市民活動支援を公益目的事業のひとつとして、長期的に支援していきたいと考えています。財団の役割は、市民の方と行政のつなぎ役、専門の NPO と市民、NPO と行政というような間をつなげるような中間的な支援だと考えています。今後皆さんと一緒に考えて「研究学園モデル」というものをつくっていきたいと考えています。

佐藤氏 : 最後に、まちづくりビジョン研究会で座長を務められてきた金子さんに総評をお願いします。

金子氏 : グリーンネックレス構想ができ活動が始められているが、大切なことは続けること、続くかどうか勝負ということです。続くためには、先程話があったような多様なグループを介する中間的なコーディネーターが必要です。本日のセミナーも地域の団体との共催で開催されています。それぞれの活動グループがそれぞれのビジョンを持っていて良いのです。要はそれらがどこかでつながるかどうかが、調整してそこにエネルギーを介してくれる中間的支援が必要ということです。そして、最終的には根っこでつながっているかどうか。今住んでいる地が自分にとって約束の地であるかどうか。もともとここで生まれ育ってきた方にとっては当然のことですが、移り住んで辿りついて住み始めた方、特に若い方たちにとってここが約束の地と思えるかどうかです。もし約束の地であればここをもっと住み心地の良いところになりたいと思うのが当然です。その根っこが繋がっていればまちづくりは継続していくのではないかと思います。

根っこを引き出してあげるのがビジョンであり、その中間のコーディネーターという役割でありたいと思います。私はよく「ビジョンとは未来への恋唄である」

と言っています。恋唄を長く唄いつないでいく、根っこをつないでいくという意味です。その確認としてこのような場ができると、継続し、つながっていけるのではと考えています。勉強会開始当初からモニターである 20~30 人程度の方ががんばってきたが、1 年半の間にこれだけの多くの方が関心を持ってお集まりいただけたことに、これからも大いに期待しています。

佐藤氏 : 本日は、その根っこでつながっていくのではないかと思うような方々にたくさんお集まりいただいています。この後は、これからどのようなまちづくりをしていったら良いのかなどを考えながら、いろいろな方からの話を聞いていただきたいと思います。

5. 先進事例「守谷野鳥の森などの取組みについて」(守谷市観光協会会長 作部屋氏)

作部屋氏

今年の 2 月までおよそ 13 年間、段階的に整備、供用してきた「野鳥の森散策路」について、その活動の経緯などをご参考にしていただければと思います。

私は、平成 11 年に千葉県柏市より守谷町(当時)に移り住みました。その時、この取り組みは人生最後の自分なりの大きなプロジェクトだろうと感じ、慎重に調べるために図書館へ行き、過去 10 年の議会議事録を読みました。町役場へ行く前に県都市計画課へ行き、「県として、守谷の将来で心配なことは何か」と尋ねた時の担当者のお答えが今日の私の活動につながっていると思います。要するに「緑が多すぎる」という答えだったのですが、これは裏を返せば、油断していると常磐新線(当時、現在の TX)の開業前後の都市化の進行で大幅に緑被率が下がるのではないかと、それに気づいてからでは遅いのではないかとということです。

横浜市は、緑被率が昭和 50 年頃は 45%程度であったのが平成 13 年では 31%と減少を示し、現在植樹活動に力を入れています。世田谷区は、昭和 48 年段階で 33%であった緑被率が 10%台に落ち、現在 30%台に戻そうと努力をされています。鎌倉市は、昭和 60 年頃の 45%から 10%程減少しており、環境悪化、人口減などに直面しています。そのようになってはいけなとを考え、転入直後、守谷町に対し提言書を提出し、それを機に公職を任務するようになり、現在は観光協会を引き受けています。また、私が住んでいる松ヶ丘西地区では花づくりをはじめ、まちづくり団体として活動しています。

まず、駅周辺まちづくりに関しては、企画課の駅周辺まちづくり推進室に平成 13 年より 4 年間在籍し、当初の駅前広場の設計を見直し、約 1 万㎡のうち約 3 分の 1 をお祭りができるような歩行者空間を設けました。駅前花壇づくりなどにも取り組みました。また住まいの近くに UR の広大な土地があったのですが、そこにガーデンウェディング施設を誘致し、敷地内や街路沿道での花づくりを共に始め、敷地の一角にはベルギーのブリュッセルから小便小僧のレプリカ像を買い求めてきて設置し、広場を造りました。このように駅周辺及び住まい周辺での取り組みをしてきたのち、今度は守谷の自然環境をなんとかしたいということで取り組みを始めました。

守谷は利根川、鬼怒川、小貝川に囲まれた台地上にあり、非常に緑の多い環境にあります。旧守谷町の中心市街地の周囲に UR の常総ニュータウン及び企業による計画住宅地があり、それらに囲まれるように大きく 4 つの緑の拠点があります。

守谷町では平成 14 年に緑の基本計画を策定、私はそのワーキンググループに参画しました。野鳥の森がある「守谷城址公園・愛宕谷津一帯」は区画整理の施行予定区域であり、行政は、なかなか緑の保全推進に手を出せなかったという事情がありました。しかし、その方向性は間違っているのではないかという危機感があり、私たち民間から取り組みを始めました。まず、民間主導による協働として地域住民、利用者、企業との連携、隣接中学校全校生徒の参画をしていただき、段階的な整備を行ってきました。ようやく今年になって、散策路と城址公園をつなぐ遊歩道整備に行政が強く関わるようになり民間との協働の動きが出てきました。

13 年前、この辺りは啞然とするような惨状でごみだらけでした。生息していたホタルも死滅してしまっていました。それでも、昔は海だったことから形成された斜面の自然林や低地の湿地には、多様な生物が有機的につながるビオトープとなっており、100 種類以上の野鳥のほか、オオタカも営巣するような生息環境があります。

平成 13 年、官民合同による **Personal Initiative** によりボランティアを組織化しました。行政、生徒、地域住民、企業などを巻き込んだこれらの協働を「多世代による多角的協働」と呼んでいます。民間の特徴はスピードが速く、週・月単位での取り組みができます。お金はないが知恵はあります。

運営にあたってはすべて自主管理で行い、公道のため、必要な部分は一部附帯保険で損害賠償に備えています。また業者は入れず、すべて自分たちでやっつけよう、資材についても企業から提供いただけるようなものを調達して支出を抑えています。多目的な利用で使える、訪れられる場所として開放していますが、自然の原状を活かした橋や遊歩道などもあり、その利用に関しても自己責任での利用ということにしました。また、近くの中学生 260 名程で「野鳥の森少年団」を結成し、軽作業の多くを任せることにしました。

現在までに、自前で 1,300m 程の散策路を整備しています。接続市道を入れて総延長 2.5km、歩くと 2 時間半程度です。湿地の上のフローティングブリッジ、小屋、発表の機会などを作ろうとステージを造り、ステージが出来るならトイレも造ろうということで今年の 2 月までに以上の設備を完成させています。守谷市の新たな観光施設として最近ではツアーなども実施され団体客もいます。

最初のステップである第一段階は、民間所有地と廃道化した市道の再活用から始まりました。ボランティアメンバーをはじめ、当時の教育長にも協力いただいて小学校高学年の児童と中学生の生徒たち総勢 200 名以上に参画してもらい、倒木の処理やごみの処理を行いました。これは近隣住民に対するデモンストレーション効果にもなりました。ごみを捨てている多くは大人でしょう。子どもたちの活動によってごみの削減に大きな効果を及ぼしました。

第二段階は、近所の中学生の通学路の近道をつくってほしいという声からでした。足の踏み場もない程の草むらをきれいにし、橋をかけるなどしました。女子中学生が作業中にお茶を沸かしてくれる光景なども見られました。

これまでは廃道化した市道を活用していましたが、第三段階では、その間を結ぶ民有地を利用できないか所有者と相談し、休耕田を使わせていただくことになりました。この段階より、中学校の生徒会長と野鳥の森少年団長を参画させ、観光協会と一緒に新たなルートを探るルート会議を行うようになりました。つくばとは違い守谷は斜面林が多く、かなり急斜面のルートとなりました。また湿地上を渡るための橋が必要となったのですが、谷

津田には橋脚は建てられないため、アメリカシアトル郊外のレイクワシントンにあるコンクリート製のケーソンの上を走る高速道路を思い出してそれを参考に考え、産廃の発泡スチロールの箱を浮きにしてその上に木製のパレットを敷いたところ、見事に橋が出来ました。すべて仲間で自前で造り、40～50人乗ってもびくともしないような構造になっています。また、急斜面の山道、自然のオブジェのような藤蔓も一つの自然の魅力となっており、できるだけ自然の原状を活かした整備をしています。平地の水辺広場づくりは市も一緒に整備しました。

また、山小屋を建てようということになったのですが、ほぼ同時期に、1万部程作製した地域情報誌の売れ行きが良く、そこで得られた収益で木材を買い、工場で切ってもらい、自分たちで組み立てました。雰囲気は軽井沢にということから周囲に白樺の木を植樹することになった時も、女性の皆さんがボランティアで手伝ってくださいました。この山小屋ですが、最初だれかが落書きをし、その対策として黒板を手作りして設置し、チョークを置いて“落書き自由”としたところ、落書きがびたりとなくなりました。ごみ捨てでもありません。黒板には中学生たちが自由に落書きをする、デジタル時代のアナログ情報の発信となっています。また足場がぐずついているので木煉瓦を敷こうとなった時も、こちらが枠だけ造ってあとは少年団に任せたと、見違えるようなきれいな道となりました。

第四段階では、水路と水辺ルートを整備しました。私たちが草むらを切り開き作業をしていると早速、鷺が舞ってくるようになりました。この水辺ルートは一番好評の場所です。

第五段階では、水辺広場・周辺の整備に取りかかりました。ここでも少年団に手伝ってもらい、工場で出た廃材を10t以上無償でもらってきて木煉瓦道を整備し、中心となる広場ができました。その後、発表の機会をつくろうということで「森のステージ」を造ることになりました。中学校一クラス最大34名が登壇できるような大きさのステージとなると、キャノピーの柱が建てられない。悩んでいたところ、オランダのマーストリヒトのある広場で行われていたコンサートで仮設のステージがあり、三角屋根で吊っているのを見て、同じことをやってみようと思ったのです。丸太のベンチも材木屋さんからいらないものをもらってきて手作りで造りました。雨上がりや早朝は非常に良い雰囲気です。また、千葉県山武市から間伐材を分けてもらえて低コストで散策道を整備でき、これもうまくいきました。さらに、これは今年の2月に完成したばかりですが、ステージでイベントがある時はトイレもなければということで、こちらも囲いは手作りにし、良いものが出来ました。

現在、守谷には猛禽類が10種類いると言われます。当然、猛禽類の餌となる蛇、蛙もいますが、荒れたままでは上から見えません。私たちが刈ることによりその鳥たちにとっては餌場が見えやすくなり、お互いに共存共栄しています。山鳥がいるということは棲息環境としてのビオトープが存在していることの証しでもあります。早朝は鳥たちの鳴き声が響き渡っています。こんなエピソードもあります。先日、ステージでオカリナのコンサートを行った時も、演奏中は全く鳴かずにいたが、演奏が終わったとたんにウグイスが鳴き始めたのです。結構聞いているのですね。このような森の中での連帯感、コミュニケーションというものを感じます。

散策ルートを維持いくために大変なことは、やはり草刈りです。市、観光協会などが一緒になって夏場は1～2週間に一度行っています。橋などの修繕も定期的に行っています。生徒たちの清掃活動も大変熱心で、近年では、死滅してしまっていたホテルが帰ってきました。

今年4月6日、茨城県観光物産課主催で、私たちが組織したワンデーツアーを催行しました。近隣の皆さんも呼び、中学生のアンサンブルとオカリナの合同コンサートを行いました。谷底のような地形となっているためとても音が響き、良いコンサートとなりました。このような使い方が今後広がっていくと良いと考えています。

最後に、なぜこの取り組みを協働で行ったのか整理してみます。

協働とは、民間と行政の良いところを引き出すということです。野鳥の森も行政が土地を買って整備していたら、おそらくこのような手作り感のある環境は出来なかったと思います。緑地帯の一部にある守谷城址公園は、かなり整地され木もだいぶ伐採されてしまいましたが、それとは対照的に野鳥の森は自然を最大限に残しています。東京周辺で一番自然が残っている森として、昨年、映画のロケ地にも採用されました。

意思決定と行動のスピードの違いはありますが、まず私たち民間は「本来やるべきこと、やりたいこと」を考え、利用者本位の考えに立つこと。これは私見ですが、一握りの人だろうがパーソナルイニシアティブでこだわりを持ってまちをつくっていくという信念、ボランティア活動でも常に社会的責任の裏づけになっており、趣味活動以上のものを見せようと常に考えています。そして活動の達成感、名誉と誇りというものもポイントで、世界につながるまちづくりをしているという実感は非常に心地よいものです。私たちが作業していても、近隣の方々が差し入れをしてくださって励みになります。プロの業者がやっているということより、ボランティアがやっているということに情感を持ってくださるのだと思います。

行政は地域最大の情報集団であり、経験が集積されています。行政の中でも夢や本音がありますが、それを出させないようにしているのはもしかしたら市民かもしれません。私たちが行政の信頼を得て、夢と本音を引き出すことがポイントなのかもしれません。野鳥の森のエリアは区画整理の施行区域であったため行政は手出しができなかったが、私たち民間が動いたことをきっかけに土地利用の方針転換をし、緑の拠点が守られました。

プロジェクト推進で考えたことですが、ボランティア活動は自由参加でありながら社会的責任を負うことなど色々な矛盾を乗り越えなくてはなりません。また人材確保もだんだん難しくなっています。仲間が入ってきますが、頑張れば頑張るほど独特のカルチャーが出来てきて、外部から入りづらい雰囲気が出来てきてしまいます。また中核となる人材の確保は企業経営の難しさと一緒にあります。そして資金確保の悩みに対しては、自分たちの活動を社会的意義のある取り組みに仕立てて企業からの協力を得ることが重要だと考えます。ソフト的な助成金は多くなってきているようですが、設備を充実させ、整備が必要な部分にはやはりハード的な助成も必要で、その部分も悩みのひとつです。

私たち観光協会は行政から資金を得て活動に充てていますが、確保した資金の3倍の社会的価値を創出することを目標としています。まちづくり活動には、地域性や独自性もありますが、転がっている宝を見つけ出し、それをどう仕掛けていくかということが大切だと考え活動しています。ご静聴ありがとうございました。

〈質疑〉～守谷野鳥の森などの取り組みについて～

質問1 : 整備にあたって、国が示しているようなマニュアルは参考にしていますか。

作部屋氏 : あまり理屈は考えず、とにかく緑を残すために私たちはどうすべきか、何をすべ

きかを考え、今ある資源をどう活かすかということで活動してきました。行政が作ったマニュアルなどは、個別の状況、施設に応じた書き方ではありません。私たちに作り直すつもりでないと、マニュアルなどもそのままでは使えないというのが率直な気持ちです。

質問 2 : 千葉県にはこのような活動事例はありますか。

作部屋氏 : 地理的に似ているのは松戸市に「21 世紀の森と広場」というプロジェクトがあります。これは行政が土地を買収し公園化したものです。千葉県、東京近郊にはこのような活動事例は多いのではないのでしょうか。ただ、段階的に活動しているような取り組みはなかなか知られていないと思います。私たちもこれからと考えていますが、ホームページもつくっていません。これまでは PR することよりも試行錯誤しながら活動してきました。大々的に風呂敷を広げるより、小さく造って大きく育てるのが結果的には良いのではと思います。野鳥の森散策ルートを造って最初に来た人は守谷市民ではなく、つくばみらい市の方、筑波大のサイクリング部の方でした。情報化時代ですから広がるものはすぐ広まっていきます。まずは抑え目に着実にやるのが良いではと思います。

意見 1 : スライドの最後の 2 枚は大変参考になりました。今日の話は、最初はイベントの話かと思いましたが、イベントがやがて日常的なものになっていく姿を話の中で見せていただきました。イベントがイベントで終わってしまうことは多いです。もちろんイベントは大事ですが、それが日常、つまり生き方、生活の仕方そのものの姿になってきて、それが新たな催し事へとつながっていると感じました。グリーンネックレスの会の方々におかれましても、イベントで終わるのではなく、日常で、螺旋状に進んでいくプロジェクトとして推進されていくことを期待しています。

作部屋氏 : 嬉しいお言葉ありがとうございます。私たちの活動もイベントとしてやろうとしたことでは全くありません。自分で楽しもうと思って始まったものです。ごみを片付けてきれいな守谷に住もう、そのためにはどうしたら良いかを考え、私自身も日常的に散歩をして楽しんでいます。これからもそのままのスタイルでいくと思います。イベントをイベント的に利用することは、私は良いと思っています。

－ 第二部 －

6. 地元地権者を中心に活動している団体による活動紹介

研究学園駅地区において、地権者の立場から、あるいは商業者の立場からまちづくりを推進している団体の代表の方々に活動内容、活動状況の報告をしていただいた。

- ・ NPO 研究学園・葛城 会長 飯島氏
- ・ 研究学園駅センター地区協議会 会長 高野氏

7. 「研究学園グリーンネックレスの会」による活動紹介

研究学園駅地区において、地区住民による協働の取り組みを始められたグリーンネックレスの会会長、グリーンネックレスの会を構成する 3 つの会の代表よりそれぞれ活動報告をしていただいた。

- ・ グリーンネックレスの会代表 金川氏
- ・ グリーンの会代表 山本氏
- ・ タウンの会代表 島田氏
- ・ カルチャーの会代表 佐々木氏

8. 「NPO つくば環境フォーラム」の活動紹介

NPO つくば環境フォーラム代表理事である田中氏より、自然豊かな里山の存続を目指してというテーマで団体の活動内容と状況をご報告いただいた。

葛城地区を拠点とした主な活動内容として、「オオムラサキの棲む里山づくり」について、その保護・調査、平地林保全（森づくりボランティア活動）、自然体験、教育広報活動などについてお話しいただいた。

（パワーポイントをもとに。以下、概要）

つくば環境フォーラムでは、つくばの豊かな自然と暮らしのつながり、それが未来にもつながり、まちづくりにもつながるということを目標として活動している。活動場所は主に筑波山、筑波山山麓、里山を中心としている。

豊里ゆかりの森での幼児親子を対象とした自然体験教室、筑波山麓の水源の森づくりとして里山の樹木の間伐及び再生、薪ストーブのユーザーが参画することによる間伐材の有効利用と森づくりへの関わりの協働活動、谷津田を生き物と子どもたちの楽園にしたいということから始まった生き物と共存する米づくり、100 名以上が登録する筑波山ファンクラブでの自然観察や調査、学校の遠足向けガイドの筑波山自然インストラクター、地域連携ということでは筑波山麓の農家さんと協働した庭先コンサートの開催などを行っている。

当団体の活動の原点でもある葛城地区では、TX 沿線開発前の研究学園駅の周りにオオムラサキがまだポツポツと棲息していた。活動のはじまりは、オオムラサキがいなくなってしまうような里山の保全をしたいということであり、目的はそのレスキューと環境教育である。

オオムラサキの棲息数を減らした大きな要因は、森が手入れされなくなった、森が少なくなったことである。つくば市内にも多く棲息が確認されていたが、平成 16 年の段階では少な

くなってきていることが調査でも確認された。しかし、開発により伐採された林からオオムラサキの幼虫がいることがわかったことから、私たちがレスキューし、島名小学校内に飼育施設をつくり、保護・飼育した。島名小の子どもたちには、蝶と里山の関わりを知ってもらい、里山に人が関わらなくなったことから、オオムラサキが絶滅危惧種にまでなってしまった事実を知ってもらうような環境教育をした。また、オオムラサキが戻れる場所をつくりたいということで、大規模緑地隣接の保健保安林に指定されている民有林において、森づくりボランティアにより約2haの雑木林を再生、整備してきた。茨城県が整備する森林の一角を私たちが植林し手入れをする協定を結び、ドングリから苗を育て、森を再整備する活動を行った。現在では植えたクヌギ、コナラも6~7m程まで成長し、松枯れの切り株から出てきたクリ、ヤマザクラなども一緒に育っており、そこを子どもたちの体験の森として様々な活動を行っている。里山子どもワンダーランド作戦では、親子体験活動、生き物に触れ合ったり森で遊んだりするプログラムを開催している。

豊かな里山の象徴であるオオムラサキについて、オオムラサキを守るということだけでなく、棲息する里山は様々な生き物がいられる自然豊かな森でもあることをわかりやすく説明しながら、里山保全活動を浸透させ、活動に参加する人が増えていくと良いと考えている。また、地球環境基金から助成金を3年間いただき、里山保全ハンドブックを刊行するなどいろいろな活動に充てることができた。

学校との連携においては、島名小での飼育施設設置以外に、市のつくばスタイル事業交付金を得て、小中学校向け教材の冊子を作成したほか、市内10校以上に出勤授業を実施した。

また、下平塚くぬぎの森に隣接する、30画地程あるロケーションヴィレッジという住宅地の住民の方々が、せっかく隣に森があるのでと自治会単位で会員になってくださり、年数回、森の手入れ活動などを行っており、私たちも森の活動指導などで参加している。

平地林保全活動の課題として、

①地域全体の緑地保全計画の必要性を感じている。特に、緑地と緑地とのネットワークの視点からは、私たちは、研究学園の平地林から筑波山へと自然や生き物がつながっていくといいと考えている。そのためには、

②だれがどう維持管理するのかという重い問題がある。ある程度の資金を確保しながら、ある部分は有償で、企業などに里親になってもらうなどして維持管理活動に参加してもらい、ボランティアでも楽しんでやってもらうようなコーディネートが必要だと考えている。そして、そのために地域では、

③保全のための合意形成を図っていかなければならない。地主、地域住民、行政、NPO、ボランティアの皆さんなどいろいろな主体が森に関わりながら、同じ方向を向いて活動していけたら良いと考えている。

目標は、自然豊かな里山を未来の子どもたちに手渡したいということである。一度壊してしまつたらなくなってしまふ。今ならまだ間に合う。今ならまだある。オオタカや野ウサギ、フクロウもいる。里山は人が手を加えることで豊かな自然が存続していくものであり、人の関わりが欠かせない。たくさんの方が自然に関わってくれて、それを未来につないでいき、それがつくばのまちの魅力になってほしいと思う。

〈質疑応答・意見交換〉～セミナー全体を通して～

質問者 1：本日の発表の内容は、まちづくりに関連した話ですが、平成 27 年度からの市の次期総合計画との関係性、連携はどうなっているのでしょうか。また、今年 7 月には県が生物多様性戦略を発表されるそうですが、ここでの自然に関連するまちづくりと関係しているのかどうか教えていただきたい。

つくば市：次期総合計画から「つくば市未来構想」と名称を変えます。総合計画審議会において具体的な内容について討議されている中で、つくばの自然をどうするかという観点では、自然を環境という広い意味で捉え、それぞれの施策をどのように展開し、それを次の世代にどのようにつないでいくかなどを現在計画作業中です。50 年先を見据えた長いスパンの計画ですので、個別の内容までは表現されていませんが、市ではご質問の件も含めてより議論を進め、またこれを機に、具体的に皆さんの活動が計画の骨格にもつながっていくようになればと考えています。

茨城県：本日のセミナーへは、大規模緑地をどう活用していくかという勉強会のような形で参加させていただいたので、ご質問の内容に係る部署からではないための確にはお答えできませんが、本日のセミナー内容、どのように連携していくかなどについて担当へ報告させていただきます。

質問者 1：本日報告された活動は、研究学園のセンター地区が中心ですが、まちづくりはその周辺地区も進めなければならないと考えています。その点についてのコメントや展望をお聞かせいただきたい。

伊藤氏：このグリーンネックレスの会は、区画整理事業が終了したあとの地区のまちづくりをどうしていくかという問題認識から立ち上げられた会ですが、もちろん区画整理事業地区内だけでなく、本日の活動紹介にもあったようにその周辺にも様々な地域資源が存在していますので、それらを含めた自然資源、歴史資源を活かしたまちづくりをしようという考えで、センター地区に限らない活動をしてきます。今、一つのモデルを作ろうとしているところです。まだ小さな団体ですので、何か一つのことでも成果を上げて、そのあと次の活動に取り組んでいくといった、一つ一つ実績を積み上げていけたらと思っています。

質問者 2：身近なことでの質問ですが、現在、私も公園の近くで花植えをしています。しかし、みんなで花を植えるのは楽しいのですが、これから水やりが最も大変な時期になってきます。自分の家からそれぞれペットボトルに水を入れて 2、3 本持って行くのですが大変です。つくば駅前では業者さんが大きなタンクを持ってきて水やりをしているようですが、個人で活動している花壇ではやはりメンテナンスが大変です。研究学園駅前では水やりをどのようにやっていますか。

山本氏：駅前の緑地部分にある散水栓から水を使わせていただいています。ポンパドウル内花壇においては、オーナーさんのご協力をいただき水道を使わせていただいています。

質問者 2 : 個人での活動では水を確保することが大変なので、ぜひ市には、駅前やまちなかの花壇への水やりについて近くで水が使用できるようにお願いしたいのですが。

飯島氏 : 市に連絡して、協力して解決策を見つけていけるようにするのが良いと思います。

意見 1 : カルチャーの会に所属しており、他団体にも所属しているのですが、最高齢は 80 歳、一番若い方で 50 歳代、大部分が 70 歳代の方々です。若い世代へつなぐためにも、若い方々にぜひご参加いただければと思っています。

意見 2 : 初めて来ましたがいろいろ勉強になりました。

意見 3 : 知らないこともあり、大変ためになりました。

〈本日の感想・印象〉

作部屋氏 : みんなそれぞれ事情、組織の成り立ちも活動理由も違いますが、つくば市は恵まれたポジションにあると感じます。まず、グリーンネックレスの会はつくば都市交通センターから口火を切って始められ、活動支援を受けられているということ、NPO つくば環境フォーラムも私たちが及ばないような規模の取り組みをされており、尊敬に値するものだと感じています。ただし、言えることは、ボランティア活動は強制できないということです。興味参加される方はたくさんいますが、私たちがまず取り組んだ松ヶ丘西地区での花づくりでも、花を植えて「きれいですね」と言われてから社会的責任がでできます。それと同時に「やめた」というわけにはいかなくなります。水やりも課題です。常に社会的責任を伴うことですので、これから活動を本格的に始められる会の方々も大変であろうと思います。活動を進めていくと、まず 3 年のバリアがあり、また何年かして次のバリアに当たります。とにかく 10 年超えることが大変だろうと思います。最初は張り切って活動されている方も家庭のご事情などで脱落する方もいます。また、このようなソフト的なボランティア活動はメンバーの多くが女性の方ですが、私のような男言葉ではなかなか通じないこともありますので、メンバーの先頭となって動き、中核となる女性の役割が非常に大きいです。活動スタート時に私たちの主旨を分かってくさる方が全体の約 1~2 割程度で、3 割又は良くて 4 割の方がまあまあ続けてくれるだろうという方、3~4 割の方は隙あれば逃げ出したいというような方もいらっしゃるかもしれないので、持続性を担保するということは本当に大変です。水やりに関しても、自宅から離れた所の花壇の場合、これは長続きしません。私たちの場合、水道料金の負担もありますが、私宅の風呂の水を再利用してペットボトルで何本か常にストックを置いておき、時々会員の中でも水やりの当番が遅れているような時は水やりをするなど、管理面で苦労はあります。いかにしてメンバーみんなが同じ目標に向かっていくか、苦しいことばかりではなく時には楽しいことも取り入れながら活動しています。そのような面では会社経営と一緒に、地域住民の参加はなかなか難しいです。しかし、私が野鳥の森の整備をここまでやってこられたのは、半分くらいは地域の中学生の活躍であり、彼ら

の存在の大きさです。そのような子どもたちを活動メンバー入れられると良いと思います。学校では、校長先生も教頭先生も教育活動を中心に考えますが、学校行事に縛られずにいかに生徒たちを引っ張り出せるかということを考え、野鳥の森少年団を結成していただきました。最初の呼びかけは廊下に貼り紙をしました。生徒の自由参加とし、先生たちは教育という形で入っていただき、責任は私たちが全部持ち、大変なことではありますが、生徒たちの安全性の確保もしました。何度か活動を重ねていくうちに、面白いなという雰囲気ができてきたわけです。このつくばにおいても、ベースになる人々の知恵を工夫して取り入れ、活動していかれることを期待しています。

田中氏 : まさにこれから、研究学園駅周辺は人材の宝庫になるのではないかと思います。新しいマンションや住宅地も建てられ、新しく住民も住まうことになります。また、住もうかなと考えている人たちが研究学園のまちを見に来ることもあるでしょう。そのようなことを考えると、研究学園駅地区には緑も残されており、街もきれいで、その人たちにとって魅力的な活動をしているというように見えると、ではこのまちに住んで、私も活動に参加してみようかなという人も増えてくるのではないのでしょうか。外に向けてそのような発信をしていくことも大事だと思います。つくばの中心部にはない、研究学園駅地区ならではの魅力というものがたくさんあるはずです。今日参加されている、この地区にお住まいの方々はそのを良くご存じだと思うので、そのようなことを外に向けて発信していき、新しい仲間を増やしていくというようにつなげていくのが良いと思います。私たちも、特にこの地区周辺は若い世代の方々が始める場所であろうということで、森が残ることが子どもたちの生活環境の魅力となっていることをアピールしています。そして、森が藪だらけになって防犯上怖い場所になってしまうのではなく、楽しい場所になっていくように、地域の人みんながその森を愛してくれて、見守ってくれて、一緒に活動して、子どもたちと遊んでもらえるようになればと思っています。かつてこの森で遊んでいた方々もいらっしゃると思うので、子どもたちだけでは遊べないような所では、ぜひ子どもたちと一緒に遊んでほしいなと思います。

伊藤氏 : やはり一番大切なことは人、人材だと考えています。今日ここにご参加いただいた方々が人材としてつくばのまちの魅力アップに関わっていけたら、地域資源もものすごく光ってくると思います。カルチャーの会の皆さんも平均年齢が70歳代にもかかわらず、汗水流して地域資源の探索や調査をし、マップを作り上げました。本日は若い方々もご参加いただいているので、ご高齢の方々に負けないよう、支えるように、ぜひ多くの方々にご参加いただけたらと思います。今日はありがとうございました。

以上